

施策評価シート(平成27年度評価実施)	担当部課名	教育委員会 学校教育課	関連部課名	教育委員会 庶務課
基本目標	こころ豊かに夢をはぐくむまちづくり【教育・文化】			
施策名	学校教育			
夢や希望を持ってたくましく生きる子どもたちを育むために、安全・安心で質の高い教育環境の整備、国際化や高度情報化などにも対応したきめ細かい学校教育、家庭や地域、ボランティアとの連携による地域性を活かした特色ある学校づくりなどの取組を推進します。				
施策が目指す蒲郡市の将来の姿				
<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達が夢や希望をしっかりと持ち、目標に向かって取り組んでいます。 ● 成人した後においても、蒲郡で学び育ったことを誇りに思い、蒲郡に愛着を持っています。 				

◆具体化した施策の取り組み実績

1 子どもの夢をはぐくむ教育の推進

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
少人数学級対応事業	全ての学年で35人以下学級の実施	全ての学年で35人以下学級の実施	全ての学年で35人以下学級の実施
教育相談事業	不登校カウンセラー相談人数 相談人数 延べ289人 心の教室相談員相談人数 相談人数 延べ546人	不登校カウンセラー相談人数 相談人数 延べ239人 心の教室相談員相談人数 相談人数 延べ458人 (子ども 266人 保護者 192人)	不登校カウンセラー相談人数 相談人数 延べ250人 心の教室相談員相談人数 相談人数 延べ450人 (子ども 250人 保護者 200人)
特別支援教育推進事業	特別支援教育指導補助員の 配置 18,686時間	特別支援教育指導補助員の 配置 18,849時間	特別支援教育指導補助員の 配置 18,900時間

2 特色ある学校づくりの推進

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
学校諸活動支援事業	5,849千円	5,803千円	5,559千円
学習指導支援事業	15,177千円	16,013千円	40,474千円

3 国際理解教育の推進

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
外国語教育推進事業	外国人英語指導助手 3人 小学校 1,516時間 中学校 1,223時間	外国人英語指導助手 3人 小学校 1,445時間 中学校 794時間	外国人英語指導助手 3人
外国人児童生徒教育推進事業	日本語指導が必要な外国籍 児童生徒数 118人	日本語指導が必要な外国籍 児童生徒数 112人	日本語指導が必要な外国籍 児童生徒数 130人

4 学校教育施設の整備

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
校舎耐震補強事業	—	—	—
体育館大規模改修(昭和56年以降建築分)	三谷小学校体育館大規模改修実施設計	三谷小学校	塩津中学校体育館大規模改修実施設計
プール改修事業	蒲郡北部小学校はじめ2校	蒲郡西部小学校はじめ2校	形原小学校はじめ2校

◆評価指標

指標名	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	将来目標
少人数学級	目標値	全学年で少人数学級(35人以下学級)の実施	全学年で少人数学級(35人以下学級)の実施	全学年で少人数学級(35人以下学級)の実施	全学年で少人数学級(30人以下学級)の実施
	実績値	全学年で少人数学級(35人以下学級)の実施			平成32年度
不登校の児童生徒数	目標値	75人	45人	75人	30人
	実績値	47人	102人		平成32年度
校舎耐震化補強工事進捗率	目標値	—	—	—	—
	実績値				平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
少人数学級	きめ細やかな学習指導や生徒指導を展開しているかを示すための指標
不登校の児童生徒数	良好な学校生活がおこなわれているかを示すための指標
校舎耐震化補強工事進捗率	{(耐震化実施棟数+耐震補強済棟数+耐震補強対象外棟数)/全体棟数}/100。耐震化工事の進捗状況。

◆指標の分析

<ul style="list-style-type: none"> ・35人以下学級については、国や県の事業の展開とあわせ、すべての学年で実施することができている。 ・不登校の児童生徒数については、「楽しさとうるおいのある学校生活の創造」をめざし取り組んできた。しかしながら、中学の多感な時期においてはさまざまな要因により不登校となる傾向があり、不登校の児童生徒数を一定の率で減少させることは困難である。 ・校舎耐震化工事については、終了目標年度である平成24年度に完了した。
--

◆今後の方針

<p>施策の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激な社会情勢の変化に伴い、子どもたちを取り巻く生活環境も大きく変わり、さまざまな問題が複雑化、多様化しているため、それらの解決への困難さが増している。 ・国際化の進展に伴い、学校における国際理解教育が重要視され、日本と外国との係わりや文化・習慣の違いなどの学習が必要となってきている。 ・建物自体の耐震化を完了したので、今後は天井などの非構造部材についての耐震化について、計画・推進していく。 ・昭和56年以降に建築された体育館6棟については、耐震性を有しているため耐震化に伴う大規模改造の対象外であった。しかし建築後30年を経過して老朽化が目立ち始めているものもあり、また、吊り天井など非構造部材が避難所として憂慮されている部分もあるので、状況を把握しつつ計画的に整備をしていきたい。 ・プール改修については、平成7年度から平成15年度まで計画的な事業継続をしてきたが、以後財政事情や公共施設の見直し検討を踏まえながら計画的に整備していきたい。
--

<p>今後の施策展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりを大切にしたいきめ細やかな指導ができるよう、30人以下学級の実施など更なる事業の充実を図る。 ・生活環境の多様化による問題への対応のためスクールカウンセラーや相談員の充実を図る。 ・国際化に対応するため、外国人講師による国際理解学習の充実を図る。 【長期的視野に立った施策展開】 ・校舎・体育館・プールといった老朽施設については、全市的な公共施設見直し計画に従い進めていく予定である。 【短期的に考えられる施策の展開】 ・経常的な修繕や営繕工事を計画する際に、全市的な公共施設見直し計画の存在を念頭において進めていく。

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	B: 一部見直しが必要である。
	コメント	<p>教育を巡る環境は大きく変わり、学校・教員に求められることが増加するとともに、多様化、複雑化、個別化している。それに対応するためには、少しでも学級規模を縮小する必要がある。35人以下学級の実施によって、きめ細かな指導ができ、子どもたちが授業中に活躍する場面が増えるだけでなく、教員が子ども一人一人に寄り添う機会が充実し、その子に応じた指導ができる。そのことが、子どもの夢をはぐくむ教育に結びつく。そのため、将来的には、より学級規模を縮小した30人以下学級を実現していく必要がある。</p> <p>学校施設の整備については、状況を把握しつつ、計画的に整備を進めていきたい。</p>

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり進行している。
	コメント	<p>学校教育については、少人数学級の完全実施、特別支援の充実も図っており、子どもたち一人ひとりにきめの細かな教育、指導が図れてきている。国(財務省)においては、財源不足を理由に教職員の削減を提案しており、当市においても厳しい財政状況ではあるが、こうした取組が後退することが無いようにしなければならない。</p> <p>学校施設については、校舎の耐震化は完了し、避難所としても使用する体育館の天井撤去を中心とする耐震対策は、平成27年度中に完了できる見通しが立った。老朽化した校舎、プール、体育館及びトイレの改修等についても公共施設見直し検討委員会との調整を考慮しつつ計画的に対応する必要がある。</p>